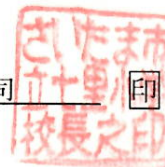


<様式1>

令和2年度 さいたま市立七里小学校 自己評価書

校長 保坂 泰司



1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 「学力向上」

- ①学校では、わかりやすく、子どもがしっかり考えて学べるような授業を行っている。
- ②学校では、教材を工夫したり、教え方を改善したりしながら学習を行っている。

(2) 「地域との連携での学校安全」

- ①学校では、家庭や地域の方々の願いをくみ、保護者からの相談や要望に適切に対応している。
- ②学校は、学校だよりや学年だより、Web ページ等を通して、教育方針や教育内容を家庭や地域にわかりやすく伝えている。

(3) 「生徒指導・教育相談の充実」「道徳教育の充実・人権意識の高揚」

- ①学校では、道徳の時間や全教育活動を通して、人を思いやる優しい気持ちや生命を尊重する心を育てている。
- ②学校では、子どものなやみやいじめなどのトラブル等について、適切に対応している。

2 評価結果について

- (1) 「当てはまる」「大体当てはまる」の肯定的な評価が、①で98%、②で97%を超えた。コロナ禍で、誰一人取り残さないための教育活動を教職員一人ひとりが考え、取り組んだ結果、授業改善が進んでいることが成果に表れている。
- (2) ①、②で95%が肯定的な評価である。日々の教育活動を Web ページ等で日常的に地域に公開していることや、次年度より実施する学校運営協議会への準備等を密に進めている成果が表れている。
- (3) ①では98%、②では95%の肯定的な回答を得た。特別な教科 道徳や特別活動をはじめとした授業や行事などを通して、児童の心を育てる教育を推進し、生徒指導体制では組織的に共通理解、共通指導を行い、問題の未然防止に努めることができた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 特別活動での話し合い活動の研修を通して、指導の統一を図りながら、自分の意見をもち、を他者に伝える力の向上に向けた研究していく。そのためのベースとなる基礎基本の徹底を図っていく。
- (2) 行事等の精選を図りながら、保護者や地域と一体となった開かれた学校づくりをさらに推進していく。来年度から学校運営協議会実施予定。
- (3) 小・中9年間を見通した指導体制の構築が不十分である。同じ中学校区での小・中合同研修会や兼務教員の活用を推進し、一体感のある指導体制を構築していく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。